

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 社会（地歴） 科目 日本史探究

教科：地理歴史 科目：日本史探究 単位数：3 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ E 組

教科担当者：（A組～E組： 鈴木 ）

使用教科書：（ 実教出版社 精選日本史探究 ）

教科 社会（地歴）

の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会を実現するための課題を主体的に解決しようとする態度を養う。日本や他国の文化を尊重することの大切さを自覚し、深める。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日本の歴史が世界の一部として成り立っていることを理解し、伝統や文化について深く理解する。また、調査や資料を使って情報を上手にまとめる技能を身につけている。	日本の歴史にまつわる事象について考え、幅広い分野から現代とのつながりを探求する能力を養う。過去の歴史から問題を見つけて構想を練る判断力を育成する。調べた内容を第三者にわかりやすく説明する表現力を養う。	生徒が主体的に学習を進めることで、座学の日本史以上に「学びたい」という気持ちを育む。日本を深く理解することで愛国心が芽生え、他国への尊重が強くなる人間性を培う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第1編 原始・古代の日本と東アジア 第1章 国家と文化の形成 【知識及び技能】 ・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ・大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。	1. 列島にくらしはじめた人々 2. 農耕がうまれる 3. クニがうまれる 4. ヤマト政権の形成 5. 倭の五王と氏姓制度	【知識・技能】 ・国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 ・黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 ・小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・人類の誕生から日本列島に人々が定住するまでの流れを主体的に追究して、人類と地球との共生をいかに図っていくかという今日的な学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	7
第2章 古代国家の確立 【知識及び技能】 ・地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ・飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。 ・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について理解する。 ・天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して古代国家の展開を理解する。 ・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ・律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的に捉えて考察する。	6. 飛鳥の朝廷 7. 大化改新から壬申の乱へ 8. 律令国家の形成 9. 東アジアのなかの天平文化 10. 奈良時代の政治と社会 11. 平安時代初期の政治と文化 12. 摂関政治と国風文化 13. 摂関期の社会と経済	【知識・技能】 ・隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解する。 ・平城京における律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。 ・藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読みとり、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 【思考・判断・表現】 ・中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じて、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。 ・唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通して、摂関政治の社会の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	11
定期考查			○	○		1

1 学期	<p>第2編 中世の日本と世界 第3章 中世社会の成立</p> <p>【知識及び技能】 ・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ・承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ・鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。 ・モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを考察する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。 ・武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 ・非御家人に対する権限拡大などが、幕府勢力が西国に浸透した事の意義を考察する。</p>	<p>14. 院政と中世荘園 15. 奥州藤原氏と平氏 16. 治承・寿永の乱と鎌倉幕府 17. 承久の乱と公武関係 18. 地頭・御家人と荘園制の変質 19. 鎌倉時代の経済・産業と自然環境 20. モンゴル襲来と日宋・日元交流 21. 社会の変動と鎌倉幕府の滅亡</p>	<p>【知識・技能】 ・貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 ・平氏政権の台頭とその背景、宋との交易などについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。 ・諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。 ・承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。 ・宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 ・幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。 ・武家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。 ・古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。 ・鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。 ・公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	10
	<p>第4章 中世社会の展開</p> <p>【知識及び技能】 ・「南北朝の動乱と室町幕府の成立」に関わる課題（問い）を設定し資料を用いて 事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し 表現する活動を通して 鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立にかけての幕府と朝廷の動きについて理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 「倭寇と東アジア国際交流」に関わる課題（問い）を設定し 資料を用いて 事象の意味や意義関係性などを多面的・多角的に考察し 表現する活動を通して 室町時代の外交 関係について理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 「自立する戦国大名」に関わる課題（問い）を設定し 資料を用いて 事象の意味や意義 関係性などを多面的・多角的に考察し 表現する活動を通して 戦国大名の分国支配発達について理解する。 ・「戦国時代はどのようにして始まったのか」などの課題について 複数の資料を活用し 学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</p>	<p>22. 南北朝の内乱 23. 足利義満と室町幕府 24. 東アジアの海をゆきかう人々 25. 惣村と一揆 26. 戦国時代の幕あけ 27. 室町・戦国時代の流通経済 28. 戦国時代の政治と社会</p>	<p>【知識・技能】 ・「室町幕府はどのようにして政治体制をととのえていったのだろうか」などの課題について 複数の資料を活用し学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・「武家政権と朝廷の関係はどのように変化したのだろうか」などの課題について 社会や経済の変化とその影響などに着目して考察し、その結果を表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・「武家支配の広がり」と国際交流」に関わる問いをふまえて見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・現在の日本の地域産業で室町時代に起源をもつものをさぐり、昔と今との関係を探るという学習上の課題を解決しようとしている。</p>	○	○	○	8
定期考査				○	○		1

<p>第3編 近世の日本と世界 第5章 統一政権の成立</p> <p>【知識及び技能】 ・織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などとともに、中世から近世への時代の転換を理解する。 ・江戸時代の身分制、都市と町の特徴を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・ヨーロッパ世界とのかかわりについて貿易、宗教、文化の観点から説明する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・江戸幕府と諸藩の政策の特徴や違いを地図や絵、史料を使い多角的に考察する。</p>	<p>29. 「南蛮」との出逢い 30. 織豊政権の全国統一 31. 東アジアの変動と豊臣政権 32. 江戸幕府の支配のしくみ 33. 江戸時代の対外関係 34. 身分制と村・町の生活</p>	<p>【知識・技能】 ・織田信長と豊臣秀吉の政策の意義を多面的・多角的に考察することができる。 徳川家康が権力を手中に収める過程を説明することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 「豊臣秀吉の死後、なぜ関ヶ原の戦いがおきたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・豊臣秀吉の宗教政策、その後の関ヶ原の戦いの政治的意義を説明できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・外国人が見た「日本」の近世を資料に基づいて多角的に考察することができる。 ・鉄砲伝来に関し、なぜポルトガル人は中国の倭寇船に乗ってきたのだろうか。大航海時代という言葉はヨーロッパを中心とする概念だが、これらの問題点を考え、アジアに立脚点をおいて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。 ・アジアや西洋諸国との関係、「鎖国」政策や四つの口などから近世日本の外交について多面的・多角的に考察することができる。</p>	○	○	○	8
<p>第6章 幕藩体制の展開</p> <p>【知識及び技能】 ・法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。 ・産業の発達、飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などを基に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化、交通・流通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 ・社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・「幕藩体制が変容し、維持できなくなったのはなぜだろうか」、「近代化の萌芽はいつごろからみられるのだろうか」など、この項目全体に関わる問いを設定して、生徒に提示し、小項目のねらいに則した学習を展開できるようにすることが大切である。そのために、以下のそれぞれの事象の学習では段階的な課題（問い）を設定することが求められる。このような一連の学習を通して、この項目のねらいである幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成の理解に至るようにする。</p>	<p>35. 幕府政治の転換 36. 産業の発展 37. 交通網の発達と都市の繁栄 38. 徳川吉宗・田沼意次と財政問題 39. 商品経済の発達と民衆の運動 40. 寛政の改革と欧米諸国の日本接近 41. 江戸時代後期の学問・文化 42. 天保の改革</p>	<p>【知識・技能】 ・p.114の絵①をみて、かぶき者の増えた理由や異様な格好をしている背景を説明することができる。 ・p.118の地図①や絵③をみて、当時の五街道をはじめ幹線道路の発達、河川や海上の交通の発達について説明することができる。 ・p.129のTopic「現在の天皇家と光格天皇」をみて、江戸時代における天皇家について説明することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・p.115の表⑤をみて、江戸時代の金貨成分比の推移が何を示すのか、成分比を変えた理由は何であるのか、1860年に重さが極端に減ったことなどグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・p.123の田沼意次の政治はかつては賄賂政治の代表で評価が低かったが、現在ではロシアとの貿易など新しい面が評価されている。歴史の評価を考えるとという学習上の課題を解決しようとしている。 ・「江戸時代における産業の発展は、どのような背景によって生まれたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・「徳川吉宗と田沼意次の政治について、共通点と異なる点を考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・「国内の問題（「内憂」）と外国の問題（「外患」）、それぞれの内容・背景と幕府の対応を考えてみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・p.115の絵④をみて、江戸時代の火事対策を、横浜に大通りを設けるなど近代の火事対策との比較をし、災害に対する姿勢について比較していくという学習上の課題を解決しようとしている。 ・経済力が政治力にむすびつくことを示す事例から、政治と経済の関係について考えるという学習上の課題を解決しようとしている。</p>	○	○	○	12
<p>定期考査</p>			○	○		1

2 学期	<p>第4編 近現代の地域・日本と世界 第7章 大日本帝国の形成</p> <p>【知識及び技能】 ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などを理解する。 ・近世から近代への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し、探究に向けた時代を通観する問いを表現する学習を行う。</p>	<p>43. 開国 44. 倒幕と「ええじゃないか」 45. 明治維新 46. 文明開化 47. 富国強兵 48. 国境の画定 49. 自由民権運動 50. 激化事件 51. 大日本帝国憲法</p>	<p>【知識・技能】 ・p.145の史料③「日米修好通商条約」をみて、条約の内容や問題点を説明することができる。 ・p.152の「ひと 渋沢栄一」をみて、渋沢栄一と殖産興業との関連を説明することができる。 ・p.159の表④「自由党と立憲改進黨の比較」をみて、2つの政党の違いを本文記述を参考に説明することができる。 ・p.163の史料③の「大日本帝国憲法」をみて、憲法の内容について説明することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・「開国によって、日本の政治と社会はどのように変容したのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・「徳川幕府から新政府への政権交代を、人々は「御一新」とよんだ。そこには、どのような思いがこめられていたのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・幕末の動きは大河ドラマでも数年おきに扱われるなど人気の時期である。それはなぜなのだろうか。現代人の歴史意識を検討して考えるという学習上の課題を解決しようとしている。</p>	○	○	○	12
	<p>第8章 大日本帝国とデモクラシー</p> <p>【知識及び技能】 ・近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成をはかりつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的にとらえる。 ・日清・日露戦争、第一次世界大戦については、戦争が及ぼした影響などを理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的な地位の変化などについて、推移や展開を考察するための課題（問い）を設定し、それぞれの講和条件などから、形成される国際秩序と我が国の関わり、近隣諸国、諸地域との関係について確認する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・日清・日露戦争前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲（現在の中国東北地方）への勢力の拡張などを通じて植民地支配をすすめたことや、第一次世界大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化を確認するなどの学習をおこなう。</p>	<p>52. 日清戦争 53. 1900年前後の世界と東アジア 54. 日露戦争 55. 社会問題と地域社会 56. 大正デモクラシー 57. 第一次世界大戦と日本 58. 資本主義の成長 59. 改造の時代 60. 植民地</p>	<p>【知識・技能】 ・明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、条約改正、日清・日露戦争、第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などをもとに、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解している。 ・p.164の表③の「条約改正のあゆみ」をみて、条約改正の責任者や交渉内容について説明することができる。 ・p.168の絵①「日本とロシアの対立の風刺画」をみて、描かれている内容や描かれている国々がどこかを説明することができる。 ・p.174の地図①「第一次世界大戦ごろの国際関係」をみて、連合国側と同盟国側の構成を説明することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 ・「帝国主義時代の国と国との関係の特徴は何か、話しあってみよう」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。 ・「資本主義の成長は都市・農村の社会をどのようにかえていったのだろうか」という問いに対し多面的・多角的に考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 「あなたは、当時の様々な立場の人々が日本のおかれた状況やあるべき姿をどのように意識していたと考えるか」などの、諸事象の解釈や画期を考察し表現するための課題（問い）を設定して、世界を認識したこの時代の人々の意識や判断を考察する学習や、「あなたは、地域社会が近代をむかえたのはいつだと考えるか、またそれはなぜか」、「あなたは、対外的な戦争は日本の近代化の過程の中で、どのような意味をもったと考えるか」などの問い（課題）を設定して、地域における近代国家の形成についてそれぞれの考えを表現して根拠をもとに議論したり、戦争がもたらした国内的、国際的な変化それぞれの重要性や相互の関係について根拠をもとに考察したことを表現したりするといった学習が考えられる。</p>	○	○	○	12
定期考査				○	○		1

3 学 期	<p>第9章 アジアの戦争と第二次世界大戦</p> <p>【知識及び技能】 ・近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、近代を展望する仮説を踏まえるとともに、「歴史総合」での学習の成果を活用して、近現代の地域・日本と世界の相互の関係を構造的に整理し、多様な視点から歴史に関わる諸事象について深い理解を図る。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的に捉える。 ・前近代の学習で習得した資料を扱う技能を活用し、近代から現代にいたる国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、近現代がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・「あなたは、戦争が不可避となった画期について、どの出来事がそれにあたると考えるか、当時、どのような根拠にもとづいてそれが選択されたと考えるか、現代において同様の事態を回避するためには何が必要なのだろうか」などの課題（問い）を設定して、世界恐慌を契機とした保護貿易主義のひろがりや全体主義の台頭、中国などにおける民族運動の進展などの国際環境と国内の状況とを関連付けて考察したりして、当時の国際状況、国内状況についての考察をふまえ、歴史のなかで、どのような判断が何を根拠におこなわれたのかについて、根拠をもとに考察した結果を表現する。</p>	<p>6 1. 普通選挙と治安維持法 6 2. 大日本帝国の選択肢 6 3. 満洲事変とモダニズム 6 4. 日中戦争と総力戦 6 5. アジア太平洋戦争 6 6. 敗戦</p>	<p>【知識・技能】 ・恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などをもとに、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解している。 ・p. 189の地図③「北伐と山東出兵」をみて、中国国内の動向と日本との関係を説明することができる。 ・p. 194～195の本文記述をみて、アジア太平洋戦争の流れを説明することができる。 ・p. 196の写真③や本文記述をみて、戦争によって戦闘員以外の民間人がどのような生活をしていたのかを説明することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 ・p. 187の普通選挙法の問題点、治安維持法が普通選挙法と同時に制定された理由、ソ連との国交樹立との関係についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。 ・p. 188の「ひと 石橋湛山」をみて、石橋の小日本主義がどのように画期的であったのかを多面的・多角的に考察することができる。 ・「兵士たちはどのような思いで戦場に向かったのだろうか。話しあってみよう」という課題に対し多面的・多角的に考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・p. 189の写真④と⑤をみて、選挙権をもった人の割合、女性と政治の関係を現在の18歳選挙権との関係もあわせて考えるという学習上の課題を解決しようとしている。 ・p. 190の満洲事変の記述をみて、軍隊は政府と同一でないことを確認するとともに、現在の文民統制（シビリアン・コントロール）がなぜ重要なのか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。 ・p. 192のLink「南京事件」をみて、いろいろと見解の分かれる歴史的な問題に冷静に学問的にどのように対応すべきか考えるという学習上の課題を解決しようとしている。</p>	○	○	○	8
	<p>第10章 現代日本社会の形成と展開</p> <p>【知識及び技能】 ・近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的に捉える。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・これまでの学習をふまえ、この科目のまとめとして、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、生徒の生活や生活空間、地域社会との関わりをふまえた主題を設定して、よりよい社会の実現を視野に多面的・多角的に考察し、歴史的な経緯や根拠を踏まえた展望を構想して、その結果を表現する学習をおこなう。</p>	<p>6 7. 世界のなかの日本占領 6 8. 占領改革と日本国憲法 6 9. 朝鮮戦争 7 0. 日米安保体制と55年体制 7 1. 高度経済成長 7 2. ベトナム戦争とアジア 7 3. 経済大国 7 4. 世界の転換と日本社会 7 5. グローバル化する世界と日本 7 6. 「わたし」たちの社会と世界</p>	<p>【知識・技能】 ・占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、平和条約と独立の回復、戦後の経済復興、アジア諸国との関係、高度経済成長、社会・経済・情報の国際化などをもとに、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、冷戦の影響、グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の変容、戦後政治の展開、日本経済の発展、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・日本と世界の相互の関わり、地域社会の変化、いままでの学習でみいだした画期などに着目して、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察することができる。</p>	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
						合計	
						105	